

山崎豊子の「魅力と迫力」



ナカノシマ大学2025年9月講座

戦後80年の年に山崎豊子の最高傑作を

『大地の子』編集者が見た



9/20(土) 14:00~15:40

会場 **大阪府立中之島図書館** (3階多目的スペース)

受講料 **2,500円** (小学生以下1,500円) 定員 **100名**

講師 **平尾隆弘** (編集者／元(株)文藝春秋代表取締役社長)

主催 大阪府立中之島図書館 (指定管理者ShoPro・長谷工・TRC共同事業体)

企画協力 ナカノシマ大学事務局 (株式会社140B)

協力 (一社)山崎豊子著作権管理法人、(一財)山崎豊子文化財団、新潮社、文藝春秋、毎日新聞社大阪本社、ラジオ大阪

山崎豊子は取材許可を求めて北京の権力中枢「中南海」を何度も訪れ、胡耀邦総書記(右端)は作家の熱意に折れて「中国の悪いことも書いてもらって結構。それが真実ならば」と応じた

「終わらぬ戦後」を書き切った大阪の大作家の苦闘と愛すべき素顔をたっぷりと

満州で引き裂かれた戦争孤児と父親の「戦後」を描き、山崎豊子の最高傑作の一つとして長く語り継がれるのが『大地の子』(1987~91年、『文藝春秋』で連載。その後単行本・文庫化)です。情報統制で取材が困難な現地の「壁」を、胡耀邦総書記(当時)まで動かして一つひとつ突破していったのは、この作品にかけた山崎豊子の情熱と人間力の賜物でした。

講師の平尾隆弘さんは、『大地の子』の執筆を見守り、作家を励まし、時にはダメ出しも辞さず、山崎豊子が全幅の信頼を置いた編集者です。大作が世に出るまでの緊張の日々。「戦友」でもあった作家と編集者の、思わず笑ってしまうエピソードも満載でお話いただきます。

9/2(火)~29(月)、同じ中之島図書館で開催される「山崎豊子パネル展II」と併せてお楽しみください。

〈講師からのメッセージ〉

満天の星空のもと、一度だけ、山崎豊子先生の歌声を聞いたことがある。「男純情の〜 愛の星の色〜」。灰田勝彦の「燦(きら)めく星座」だった。サビの「思い込だら命がけ」には特に力が入っていた。まさに先生にピッタリの歌ではないか。「先生のテーマソングみたいですね」「そやろ」といったやり取りがあった。今回の講演では『大地の子』をはじめとする「命がけ」の執筆生活の一端をお話できればと思います。



講師の平尾隆弘さん

ひらお・たかひろ 1946年吹田市生まれ。1970年(株)文藝春秋に入社。山崎豊子のほかに立花隆、井上ひさし、村上龍、吉本隆明、村上春樹等を担当する。『CREA』『週刊文春』『文藝春秋』編集長を歴任し、芥川賞選考会の司会進行も行う。2009~14年同社代表取締役社長。退任後、母校・神戸市外国語大学の客員教授や世田谷文学館友の会会長を務めた。話が面白く、飾らずズバット本質を突く人。

→受講申込は、こちらのQRコードからナカノシマ大学のWEBで受付します。

※次回は10月20日(月)18時予定……「わたしが船場の建築を描き続ける理由」
講師=コジマユイ(建築イラストレーター)

